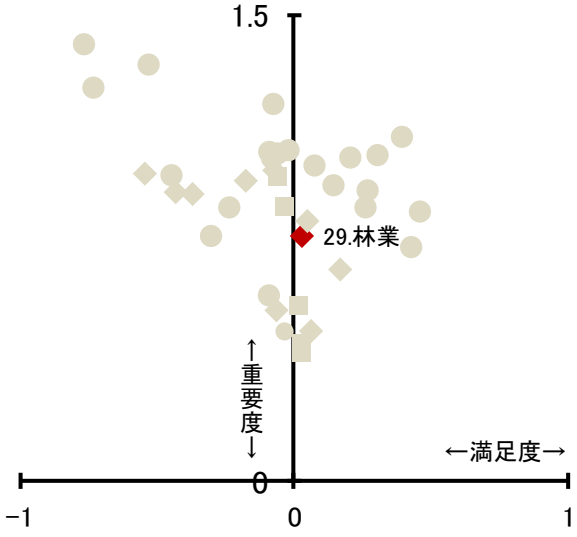
28 林業

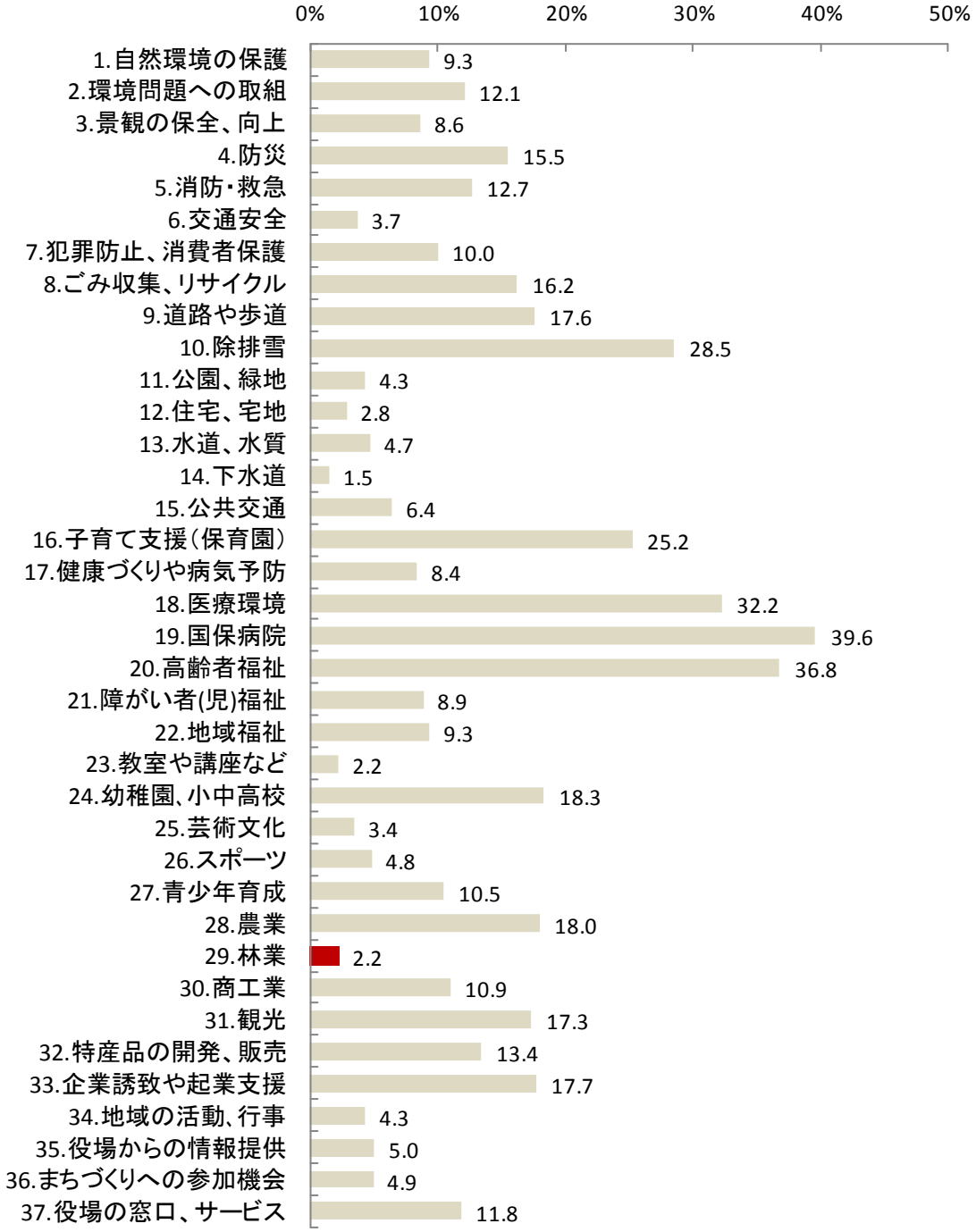
（１）関連グラフなど

【問２】暮らしの満足度・重要度
満足度をヨコ軸、
重要度をタテ軸にした場合の
位置づけです。

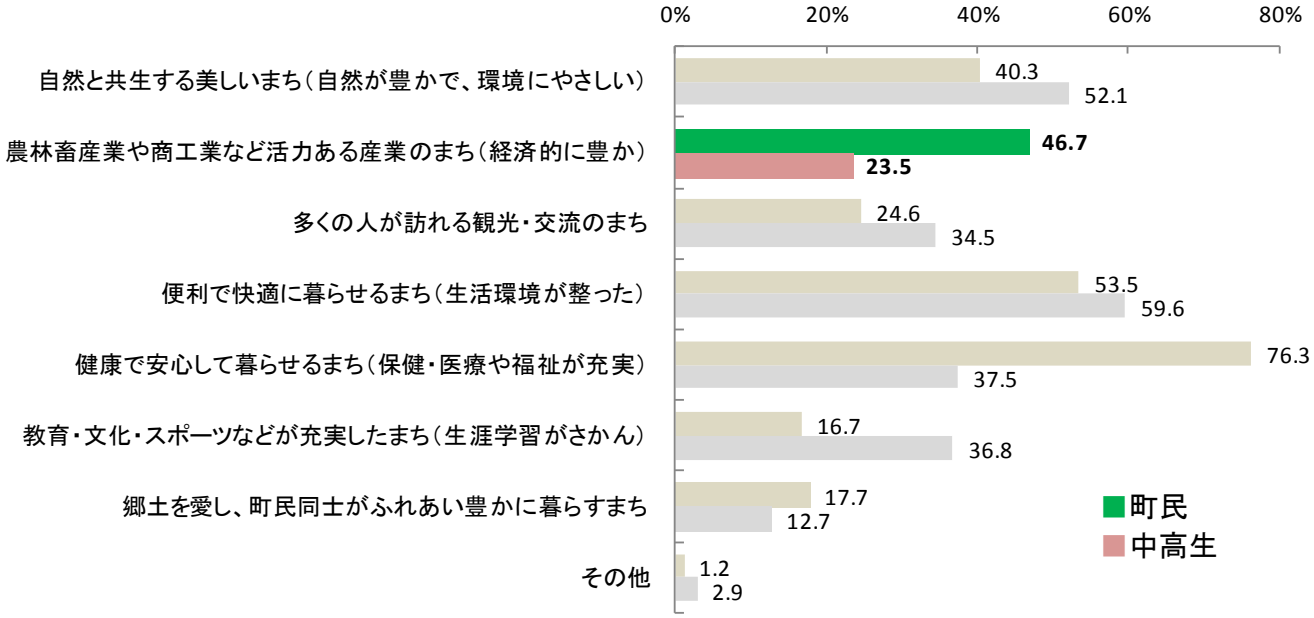
【問３】特に重要なもの
問２と同じ 37 項目の中から、
特に重要と思う項目を
５つ選んでもらった位置づけです。



【問３】特に重要と思うもの（5つまで選択/町民813人）



【問6】将来の美幌町に望む姿（3つまで選択/上段：町民、下段：中高生）



（２）現計画の検証

施策	主な取り組み	進捗状況	問題・課題	今後の見通し、方向性
森林の整備	森林環境保全整備※の推進	森林経営計画に基づく施業		森林経営計画に基づき執行。
	町有林造成の推進	森林経営計画に基づく施業		森林経営計画に基づき執行。
	野そ駆除※の推進	森林経営計画に基づく施業	FSC 森林認証林での野ネズミ駆除薬剤散布は禁止されており、現在期限付きで認められているが、期限後の対応が課題。	森林経営計画に基づき執行。
付加価値の向上	森林認証林の拡大	H17 構成員 22 名、面積 3,028ha H25 構成員 31 名、面積 3,683ha	森林所有者にとって森林認証取得のメリットが少なく、デメリットとして、野ネズミ駆除の薬剤散布ができない等課題がある。	課題の解決及び非認証林との価格差をつける認証林普及事業の推進により認証林の拡大が図られる。
	ＦＳＣ森林認証※取得等による地域材のブランド化	・FSC 森林認証の更新 ・町産材活用促進事業による住宅建築の促進 ・H19 年度から 7 年間で 103 件の新・増改築		森林認証及び促進施策の継続により、地域材のブランド化が図られる。
	ＣｏＣ認証※取得の推進	５団体・１グループの取得		グループ内で脱退企業があったものの、現認証企業数で推移すると思われる。
	地材地消による地場産材の利用促進	町産材活用促進事業による住宅建築の促進 H19 年度からの 7 年間で 103 件の新・増改築		事業により環境材への理解は一定程度認識されてきており、施策を継続し地域材の利用を促進する。

経営の近代化･効率化の推進	林業グループの育成・組織強化の推進	各種研修等のサポート	林家の高齢化	林家の高齢化が進んでいるが、他林業グループとの合同研修の実施等により組織の強化が図られる。
	林産物加工施設整備の推進	森林組合等における施設の整備は行われなかった。		森林組合等の整備計画に基づき実施される。
森林の有効活用	未来を拓く森林づくり事業の推進	・FSC 森林認証の更新 ・企業の森林づくり ・美幌中学校の森づくり ・赤ちゃん記念植樹		環境意識の向上により企業等が森林づくりに参画する機会が増えてきており、これらの背景から今後も企業の森林づくりを推進していく。
	森林浴、森林セラピー※などへの活用研究	森林浴、森林セラピー事業の実施検討		立地等、実施可能な場所が無いため、他の事業の検討を行う。

※森林環境保全整備：造林、下刈り、除間伐や作業路の整備など適切な森林の整備・保全。
※野そ駆除：植林した苗木が野ネズミによって食害を受けることを防止するため、薬剤を散布して駆除すること。
※ＦＳＣ森林認証：ForestStewardshipCouncil（森林管理協議会）が適正な森林管理が行われていることを一定の基準によって審査・認証すること。
※ＣｏＣ認証：ＦＳＣ森林認証を受けた森林の木材・林産物を加工・流通させるため、他の製品と混ざらないよう適切に管理されたものを証明する制度。
※森林セラピー：森林が持つ癒し効果を健康増進やリハビリテーションに役立てる森林療法をいう。

（３）意見、提案

☺：小学生　✪：中高生　❀：育児ママ　⚐：自衛隊　⌘：高齢者　●：町民　○：職員

- ● 認証林普及事業・住宅リフォーム促進事業について。民間住宅以外の店舗や集合住宅（アパート、マンション）などにも範囲を拡大し、利用促進を図ることにより、更なる経済効果があると思われるので検討頂きたい。
- ● 認証材の活用を民間住宅以外に、店舗及び集合住宅（アパート、マンション）など範囲を拡大し、利用促進を図ることにより、更なる経済効果が現れる。
- ● 住宅リフォーム促進事業について、民間住宅以外に、店舗及び集合住宅（アパート、マンション）など範囲を拡大し、利用促進を図ることにより、更なる経済効果が現れる。
- ○ 空洞化した大通りに郊外からの既存企業が町産材を使用したオフィスを建設するため、町が取得費や建設費を助成する。企業は町産材建設を推進する立場でもあるため、オープンスペースなどを作ることを要件とし、町民が将来住宅建設のためのきっかけや町産材住宅の魅力を感じることができる。また、見た目含めて大通りに木の温もりが感じられ、初めて美幌町を訪れた方への町の PR にもなったり、社員が大通りを歩くことで、賑わい・活気がでてくる。
- ○ 森林(町の 2/3～山づくり)→木資源の付加価値化(住宅・燃料)→働く場所(苗木・施業・運搬・加工・建築)＋伐採跡地の植林。農地(1 万ヘクタール～基幹産業)→顔の見える農産物（アスパラ、山わさび、じゃがいもなど）→働く場所(生産・運搬・加工・販売)＋耕作放棄地の活用。地域資源の地域内循環→再生エネ（太陽光・木質バイオマス・BDF・小水力）や省エネ(ヒートポンプ)の活用、循環バスの利用促進によるエネルギーマイレージの少ない「低炭素なまちづくり」